



# EXTRA, EXPERT AND EXTREME EXPRESS--

2007 VOL.  
**5**



## 酒井大作がコースレコードを更新! JSB1000初ポールポジションをゲット!!

Photo by H.Wakita(c)



2番グリッド / #73 安田 毅史 急昇.com HARC-PRO.



3番グリッド / #87 柳川 明 TEAM GREEN



### JSB 1000

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

●予選日:天候/晴れ 路面/ドライ ●決勝コースイン/14:15 スタート/14:35(25周)

1975年のオープン以来、毎年、全日本ロードレース選手権が開催されているスポーツランドSUGO。アップダウンがあり、日本でも有数なテクニカルサーキットだ。梅雨明けから厳しい暑さに見舞われている日本列島だが、スポーツランドSUGOも例外ではなかった。レースウィークに入っても日中の気温は30度以上、路面温度も50度以上まで上がり、例年に比べても、かなりの暑さ。それでも、8月上旬にあった事前テストに比べれば暑くないと、ライダーやメカニックは口をそろえていた。気温は35度以上、路面温度は60度以上という酷暑だったと言う。

JSB1000クラスの公式予選は、60分1セッションで行われ、マシンセッティングを詰めながら、最後に予選タイヤでのタイムアタックとなった。

ポールポジションを獲得したのは、前日から好調な走りを見せていた酒井大作。予選でもアグレッシブなライディングを見せ、1分28秒272というニューコースレコードを樹立。JSB1000クラスで初めてポールポジションとなった。

「想定タイムより遅かったけれど運よくポールポジションを獲得することができた。予選タイヤで4周目に出したタイムだからね」と大作。予選終了間際になると、アタックに入るライダーが集中することもあり、大作は、やや早いタイミングで予選タイヤに履き替え、タイムアタックに入っていた。しかし、アタック中にシケインで転倒があり赤旗中断となってしまふ。予選タイヤは初期のグリップはいいが、そのライフも短い。残り5分で再開されるが、本数制限があるため、タイヤ交換はできず、そのままコースイン。グリップの落ちた状態で、驚異的なタイムをマークしたのだ。

(中面へ続く)

#### TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

10:10 -	GP-MONO スタート進行(コースイン～選手紹介)
10:25 -	GP-MONO 決勝レース.....12Laps
11:05 -	GP125 スタート進行(コースイン～選手紹介)
11:20 -	GP125 決勝レース.....18Laps
12:10 -	ST600 スタート進行(コースイン～選手紹介)
12:25 -	ST600 決勝レース.....18Laps
13:15 -	ビットウォーク・キッズファミリーウォーク(キッズデモ走行・スーパーバイクエキスベリエンズ)
14:15 -	JSB1000 スタート進行(コースイン～選手紹介)
14:35 -	JSB1000 決勝レース.....25Laps
15:30 -	GP250 スタート進行(コースイン～選手紹介)
15:45 -	GP250 決勝レース.....20Laps

※レース終了後～サーキットクーリング



### がんばれ!新潟

JMRA(全日本ロードレース選手会)では、「新潟県中越沖地震」で被災された方々を支援するため、救援募金の募集を実施。決勝日ビットウォーク中にコントロールタワー付近の選手会ブースにて受付します。選手会所属のトップライダーもブースに集まるので、是非多くの方のご協力をお願いします。

「コースインした瞬間からスライドしていたし、2コーナーではヒジをすっていた」とコメント。金曜日にトップタイムをマークしていた時点で「27秒台は、見えている」と語っていた大作だったが、最初にタイムアタックに入ったとき、第1セクションの区間タイムだけで、それまでのベストタイムより0.3秒も速かったという。単純に引き算しただけでも1分27秒台に入る計算だったのだ。

2番手に安田毅史が、やはりコースレコードを破るタイムでつけた。安田は、赤旗再開後に柳川明、伊藤真一の後方にうまくつけて、出したタイムだけに、決勝に向けては、まだに詰め切れないと語る。逆に、3番手につける柳川は、事前テストから速さを見せており、大作を止める最右翼と言えるだろう。また、今回が復帰戦となる伊藤は、マシンのセットアップに悩んでいたが、決勝までに帳尻を合わせてきそうだ。4番手の徳留和樹もテストから好調な一人。そろそろ結果を出しておきたいところだ。

予選結果を見るとブリヂストン勢が上位を占める中、ミシュランを履く手島雄介が5番手に食い込む健闘を見せている。

レースは、大作、柳川、伊藤の3人に、安田や徳留、渡辺篤などが、どこまでついていけるか!? 韋駄天・秋吉耕佑のスーパーライディング、約10年振りのSUGOとなるノリックなど、見どころ盛りだくさんのレースになることは間違いない!!

[佐藤 寿宏]



**POLE POSITION 酒井 大作 1'28.272**

「ポールを取れたのは、運がよかったことかもしれませんが、チームがいい仕事をしてくれたおかげ。感謝しています。1分27秒真ん中くらいは出せると思っていたので、想定タイムより遅かったのが悔しいです。タイムアタック中に赤旗が出てしまったので、アタックのタイミングをはずしてしまいました。ポールポジションは取りましたが、タイム差もわずかだし、周りには強いライダーがいっぱいいる。(前回の)オートポリスでも楽しく競り合えたので、今回のレースも楽しんでバトルできたいと思います」

# JSB1000 CLASS STARTING GRID

1	1'28.272 39 酒井 大作 GSX-R1000	2	1'28.517 73 安田 毅史 CBR1000RR	3	1'28.741 87 柳川 明 ZX-10R
2	1'28.896 54 徳留 和樹 CBR1000RR	4	1'28.917 48 手島 雄介 CBR1000RR	5	1'28.930 76 渡辺 篤 G8X-R1000
3	1'28.978 1 伊藤 真一 CBR1000RR	6	1'29.093 4 秋吉 耕佑 GSX-R1000K7	7	1'29.203 75 大崎 誠之 YZF-R1
4	1'29.492 81 阿部 典史 YZF-R1	8	1'29.592 62 横江 竜司 YZFR1	9	1'29.617 3 山口 辰也 CBR1000RR
5	1'29.656 10 竜谷 長純 CBR1000RR	10	1'30.042 30 波多野 祐樹 GSX-R1000K7	11	1'30.044 9 中須賀 克行 YZF-R1
6	1'30.288 53 今野 由寛 GSX-R1000 K7	11	1'30.843 71 津田 一磨 CBR1000RR/	12	1'31.316 21 野寄 真二 CBR1000RR
7	1'32.119 17 山中正之 CBR1000RR	12	1'32.168 85 古川 力也 CBR1000RR	13	1'32.550 24 荻田 庄平 ZX-10R/PI
8	1'32.860 33 松井 秀樹 CBR1000RR	13	1'32.891 704 中村 知雅 CBR1000RR	14	1'33.159 23 本田 晃司 GSXR1000K7
9	1'33.415 34 吉田 忠幸 GSX-R1000	14	1'33.700 49 小林 哲朗 CBR1000RR	15	1'33.797 47 後藤 高秀 YZF-R1
10	1'34.069 45 小林 敦之 CBR1000RR	15	1'34.173 79 磯谷 晋一 CBR1000	16	1'34.504 38 原田 洋孝 ZX1000D6F

**全日本ロードレース選手権**

## GP125 youth CUP に注目!

MFJにより、今シーズンはGP125クラスに「GP125 youth CUP」が設けられた。若手ライダーの育成を目的とするため、12歳から17歳以下のライダーが対象だ。「GP125 youth CUP」に登録しているライダーは、下記の8名だ。成績優秀者はスペインで開催される「MotoGP アカデミー \*1」のオーディションに推薦されるため、この8名の勝負は今シーズンの見どころのひとつとなっている。

第4戦終了時点では、20ポイントを獲得している富沢祥也が「GP125 youth CUP」のポイントリーダー。今大会の予選ではポールポジションをゲットしている。11ポイントで続く渡辺一馬は怪我のため欠場。5ポイントの篠崎佐助は15番手、3ポイントの矢作雄馬は10番手からのスタートで、ポイントのをばすチャンスだ。

\*1「MotoGP アカデミー」は、ドルナ社が運営する若手ライダー育成プログラム。2006年チャンピオンの中上貴晶も、このオーディションをきっかけにスペイン選手権へ参戦するチャンスをつかんだ。

ゼッケン	ライダー名	生年月日	チーム
48	富沢 祥也 トミザワ ショウヤ	1990年12月10日	FRS
50	尾野 郡司 オノ グンジ	1991年8月5日	BATTLE & MIHARA RACING
55	渡辺 一馬 ワタナベ カズマ	1990年5月6日	DyDo MiU Racing Team
68	篠崎 佐助 シノザキ サスケ	1993年6月20日	ENDURANCE
71	矢作 雄馬 ヤハギ ユウマ	1990年7月26日	ENDURANCE
72	和田 卓也 ワダ タクヤ	1991年5月19日	チームKOHSAKA
73	山本 剛大 ヤマモト タケヒロ	1993年2月26日	CLUB HARC-PRO.
76	尾野 弘樹 オノ ヒロキ	1992年7月15日	BATTLE & MIHARA RACING



[前列] 左から、矢作 雄馬、篠崎 佐助、山本 剛大、和田 卓也  
[後列] 左から、尾野 弘樹、富沢 祥也、渡辺 一馬、尾野 郡司

# 巧者・小西良輝が意地のポールポジション!

53台が出出し、ポールポジションから1秒以内に20台がひしめく激戦となった公式予選。2003年のチャンピオン小西良輝が、やっと本来の実力を発揮し始めた。予選中は、常に単独でのタイムアタックとなり、1回目のセッションでは、他のライダーを引っ張る形で組3番手に沈んでいた。2回目のセッションでも単独走行でタイムを出し、1分33秒385でポールポジションを獲得した。

「前半戦では、07年型CBR600RRの良さをみせずしていた。鈴鹿8耐で1000に乗った後、600への乗り換えが順調で、「まとまってきたかな?」という感じ。昨日の午後に転倒していたので、予選1回目は様子を見て、2回目でアタックした。これ以上アベレージタイムは上がらないと思うので、テストで仕上げた仕様を信じていだけ」と小西。

レースタイムは、「1分34秒台だと、前回のオートボリスのように、後続にのまれてしまうので1分33秒台真ん中で走りたい」と言う。岩田悟が、自己ベストグリッドの2番手につけ、野田弘樹、高橋英倫、沼田憲保、佐藤裕児、武田雄一と続き、ポイントリーダーの奥野正雄は、8番手につけた。

決勝は、単独でタイムを出していた小西と高橋英倫を中心に岩田、野田、奥野などがついていく展開になりそうだが、ラップタイムによっては、大混戦になる可能性もある。小西が勝てば、チャンピオンになった2003年の第7戦SUGO以来、4年ぶりの優勝だ。

また、前半戦は伊藤真一の代役を務めていた須貝義行は、当初の予定通り自身のチームからドウカティ749Rでエントリー。1分34秒014という好タイムをマークし、14番手グリッドにつけている。

[佐藤 寿宏]



**POLE POSITION** 小西 良輝 1'33.385

「今年は、8耐を走った後、事前テストで徐々に600に乗り戻した時の感覚が悪くなかった。前半戦のレースでは、07のCBRの良さを引き出すのに迷っている部分があったが、まとまってきたかな?という感じ。うまくいけば32秒台は出そうだけど、路面温度が高くてきついかなと思った。決勝は1分33秒まんなかぐらいをキープしないと優勝できないでしょう。集団に飲まれたらオートボリスの二の舞。自分にアドバンテージはないので、決勝はテストで仕上げたことを信じていだけですよ!」

**ST600** 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	73	小西 良輝	1'33.385	急募.com HARC-PRO.
2	20	岩田 悟	1'33.475	F.C.C.TSR
3	12	野田 弘樹	1'33.476	レーシングチーム ハニービー
4	8	高橋 英倫	1'33.555	TEAM GREEN
5	23	沼田 憲保	1'33.640	HITMAN RC甲子園ヤマハ
6	10	佐藤 裕児	1'33.646	ジュビロレーシングチーム
7	88	武田 雄一	1'33.720	Team 桜井ホンダ
8	6	奥野 正雄	1'33.766	伊藤RACING-GMDスズカ
9	705	黒川 武彦	1'33.808	松本クリニック中村Egスピード
10	51	泉本 真宏	1'33.900	RT仙台森くま&秘湯義々温泉
11	15	稲垣 誠	1'33.921	バーニングブラッドRT
12	72	宮崎 敬	1'33.933	DOG FIGHT RACING
13	5	寺本 幸司	1'34.013	Moto Map VEGA
14	9	須貝 義行	1'34.014	チームスガイ
15	43	生形 秀之	1'34.054	エスバルストリームレーシング
16	17	新垣 敏之	1'34.078	ARA 虎の穴 Bikers
17	69	小林 龍太	1'34.213	バーニングブラッドRT
18	25	東浦 正周	1'34.235	プラスミューレーシングチーム
19	76	清水 直樹	1'34.282	RS-ITOH&KAZE
20	62	中津原 尚宏	1'34.331	研友会栃木PGLレーシング
21	19	鶴田 竜二	1'34.438	TrickStarタミオン-R
22	11	森 新	1'34.468	急募.com HARC-PRO.
23	29	津田 拓也	1'34.566	チームOSG&モトスポーツ
24	55	高橋 江紀	1'34.620	DoDo MiU Racing
25	28	清水 郁巳	1'34.642	DREAM高崎B'WISE RT
26	44	児玉 勇太	1'34.795	DDBOYS Racing
27	16	大石 正彦	1'34.833	伊藤RACING-GMDスズカ
28	27	中山 真太郎	1'34.926	Kohara RC
29	99	高杉 奈緒子	1'35.077	レーシングチーム ハニービー
30	61	佐藤 晴規	1'35.134	racing ライドスポーツ
31	45	和泉 美智夫	1'35.172	ホンダドリーム北九州RT
32	60	古畑 博志	1'35.420	RTハニービー-松田塾
33	57	長谷川 克憲	1'35.446	SBS菅田
34	34	川原 英実	1'35.567	TEAM PLUS ONE
35	33	中島 大輔	1'35.579	アンビシャス LUMIX レーシング
36	56	原田 貴史	1'35.708	CLUB HARC-PRO.
37	83	小野 照央	1'35.978	TAMITON-R
38	89	須磨 貞仁	1'36.002	ホンダドリーム北九州RT
39	64	和田 憲史郎	1'36.103	VEGA SPORTS
40	58	大木 崇行	1'36.139	Club HARC-PRO.

# 富沢祥也が断トツの速さで初ポールポジションをゲット!

公式予選はGP125クラスからスタート。前日のA.R.T.合同走行で2番手以下を約1秒引き離す好走をみせていた富沢祥也が、予選でも常にリーダーボードのトップに立ち続けた。7周目には早くもただ1人、1分34秒台に突入する。11周目には更にタイムを削り、1分34秒882をマーク。他のライダーのタイムをまたも1秒以上引き離してみせた。

ラストアタックに入ると、菅谷慎一、仲城英幸、井手敏男、岩田裕臣が続々と自己のタイムを更新。1分35秒957で富沢に続いていた竹内吉弘のタイムを上回るもの、富沢のタイムには及ばなかった。

デビュー2年目の富沢はコースレコードにはコマ2秒ほど届かず、惜しくも更新とはいかなかったが、全日本初のポールポジションを獲得した。

SUGO大会開幕直前に参戦が決まった葛原大陽は9番手。本人にとっては納得のいかないタイムだったが、決勝ではトップ争いに加わってくるだろう。

前戦オートボリスの予選中に転倒した菊池寛幸はまだ「バイクにまたがるのもやっ」という状態で、怪我をおして出場しているが、「様子を見ながら走っている」と言いながらも11番手につけている。

また、今大会から参戦している13歳になったばかりの最年少ライダー、Team NOBBYの日浦大治朗は12番手と健闘している。

フロントロウに並ぶ仲城、菅谷、セカンドロウの岩田、井手、竹内らベテラン勢が富沢の前に出れば、大混戦も予想される。決勝は、富沢がポールポジションから好スタートを決められるか否かが鍵となりそうだ。

なお、渡辺一馬はシーズンのインターバル中に大腿骨を骨折したため、今大会は欠場している。

[藤根 ゆかり]



**POLE POSITION** 富沢 祥也 1'34.882

「前日の合同走行からいいタイムが出せた。今までにないぐらい走れています。コースレコードが見えていたので、本当は狙っていた。予選では気温が上がらないうちにタイムを出そうとガンガン攻めていたので、早いうちに1分34秒台に入れることができたのですが、後半はタイムを伸ばすことができず、レコードを逃してしまったのが悔しい。決勝ではトップ争いに飲み込まれないように、先行逃げ切りのレースがしたい。そして、レース中にレコードタイムを出したいです!」

**GP125** 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	48	富沢 祥也	1'34.882	TeamProjectuFRS
2	10	仲城 英幸	1'35.527	TEAM ASPIRATION
3	16	菅谷 慎一	1'35.575	TEAM PLUS ONE
4	6	岩田 裕臣	1'35.626	TEAM PLUS ONE
5	5	井手 敏男	1'35.703	Feel&TEC-2
6	3	竹内 吉弘	1'35.957	RP馬行&YUE&Promathic-I
7	11	徳留 真紀	1'35.966	TEC.2&Feel
8	15	波平 伊織	1'36.294	Honda鈴鹿レーシングチーム
9	100	葛原 大陽	1'36.436	バーニングブラッドRT
10	71	矢作 雄馬	1'36.466	橋川&ENDURANCE
11	4	菊池 寛幸	1'36.479	BATTLE&ミハラレーシング
12	46	日浦 大治朗	1'36.569	Team NOBBY
13	61	柳沢 祐一	1'36.623	18 GARAGE RACING TEAM
14	8	山本 武宏	1'36.664	チームMARINEコスモス+G
15	68	篠崎 佑助	1'36.667	ENDURANCE&橋川塾
16	65	船田 英生	1'36.671	チーム ウイリー
17	13	山田 亮太	1'36.672	TEAM PLUS ONE
18	7	井上 誠	1'36.736	BATTLE&ミハラレーシング
19	72	和田 卓也	1'36.785	チーム KOHSAKA
20	73	山本 剛大	1'36.800	CLUB HARC-PRO.
21	27	天野 邦博	1'36.860	ホンダ狭山レーシングチーム
22	25	古市 右京	1'36.873	TEAM ASPIRATION
23	23	中村 貴紀	1'37.200	Team Life
24	14	東 幸寛	1'37.206	RISKY+ホワイトレーシング
25	19	大石 義次	1'37.254	TEC.2&Feel
26	76	尾野 弘樹	1'37.262	BATTLE&ミハラレーシング
27	99	Rattaphong WILLAROT	1'37.330	Thai A.P.Honda with HARC-PRO.
28	99	今中 満	1'37.426	RISKY+ホワイトレーシング
29	18	國吉 基寛	1'37.699	SMFレーシング MKN
30	24	水野 那由太	1'37.704	TEC.2&Feel
31	97	畑中 要	1'37.877	サークルBig教-FTR-Tナビ
32	75	松村 偉人	1'38.074	KTR&ENDURANCE
33	21	長谷川 裕	1'38.096	RISKY+ホワイトレーシング
34	63	籠島 欣隆	1'38.146	MOTOSHI RACING
35	47	二川 広隆	1'38.185	MOTOFASSTR根岸オート
36	52	増田 雄亮	1'38.185	Honda鈴鹿レーシングチーム
37	85	平子 剛志	1'38.185	クルーズレーシングチーム
38	18	山内 隆史	1'38.270	レインボーキフト&YUE
39	45	須藤 竜之助	1'38.583	racingライドスポーツ
40	74	鎌田 悟	1'38.628	KTR&ENDURANCE +OSL

以上予選通過

# 今回も宇井陽一のワンサイドレースとなるか!?

今回も宇井陽一のワンサイドレースとなりそうなGP250クラス。宇井は金曜日から1分31秒台を連発。酷暑となった事前テストでは、ロングランを行い1分32秒台でコンスタントに周回できたという。公式予選でも、タイヤのテストを行いながらのタイムアタックとなったが、宇井のタイムを上回るライダーは、今回も現れなかった。

「昨日のコンディションであれば1分30秒台に入っただろうと思うけれど、今日は、路面の状況が変わっていたし、ベストタイムを出した周も(他のバイクに)引っかけながらのもの。今回は、とにかく暑い。走っているとフレームまで熱を持って「たわむ」感じがするからね。いつも通り自分のレースをするだけだね」と3戦連続ポールポジションを決めた宇井。今回から、イタリアのパーツメーカー、マロッシがスポンサーに付き、鮮やかなオレンジ色にマシンを一新。後半戦も、その勢いは止まりそうもない。

宇井の対抗馬となりそうなのが今シーズンGP250クラスで2年目を迎え成長著しい濱本裕基だ。第4戦オートポリスでは、宇井に食らいつく走りを見せ2位に入り、今回も着実にセッティングを詰めてきている。「ここまで上り調子でこられている。レースを想定しながら予選も走っていたし、決勝が始まる時間が15:30なので、気温と相談してタイヤをチョイスしようと思っている。とにかくスタートを決めて、オープニングラップで宇井さんに離されないようにしたい」と濱本。

レースは、今回も宇井を中心に、濱本がついていく展開になるだろう。さらに高橋巧、及川誠人、富沢祥也などがトップ争いについていきたいところだ。

[佐藤 寿宏]



**POLE POSITION 宇井 陽一 1'31.249**

「祥也は小さいころから知っているが、まさか僕が引退する前に一緒に走れるとは思いませんでした。今年は、まだ僕の前を走らせるわけにはいきませんね。予選では30秒前半を想定していたが、昨日より路面状況が変わり、なかなか一発タイムを出せない。SUGOの路面はセパンみたいな感じで特殊。どのタイヤを使ったらいいか迷いました。夢の中では1分29秒989が出ていたんですけどね(笑)。いつもは想定タイムをはずさない方なのに、ここではそう簡単にタイムが出せない。決勝では祥也が追ってくると思うが、絶対に前は走らせません」

## GP250

## 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	41	宇井 陽一	1'31.249	MALOSSI/spruce&PT
2	7	濱本 裕基	1'31.962	TEC2&Feel 九州共立大学
3	4	高橋 巧	1'32.121	バーニングブラッドRT
4	5	及川 誠人	1'32.543	ウィルアクセス&プラスミュー
5	48	富沢 祥也	1'32.543	TeamProjectμFRS
6	6	秋谷 守	1'32.725	チーム モトスペース
7	56	山崎 都	1'33.055	HITMAN RC甲子園ヤマハ
8	8	秋田 貴志	1'33.096	Henkel TDR YAMAHA
9	45	Doni Tata Pradita	1'33.190	ヤマハINDONESIA RT
10	16	櫻井 大幸	1'33.706	KEIHIN Kohara R.T.
11	14	及川 玲	1'33.804	ペンタグラム&株嶺岡&M_Ra
12	92	國川 浩道	1'33.870	SP忠勇レーシングチーム
13	15	豊田 浩史	1'33.997	D:REX
14	93	遠藤 卓実	1'34.331	PRO-TEC&新潟工業短大
15	34	小口 理	1'34.406	ALLMAN&OW小口歯科
16	62	中本 都	1'34.420	RT-OUTRUN
17	65	二瓶 彰	1'34.460	SP-V&寿レーシング
18	19	伊藤 勇樹	1'34.638	DOG FIGHT RACING
19	26	柴原 誠	1'34.684	Team Danke Racing
20	37	島村 英一郎	1'34.740	SP-V・インプラント駒津歯科・ikbs
21	72	木村 旭厚	1'35.048	PRO-TEC日大工学部機械研
22	32	渡辺 一樹	1'35.066	
23	47	小口 亘	1'35.769	ALLMAN&OWRACING
24	25	福山 京太	1'36.238	Team Danke Racing
25	33	大城 光	1'37.338	Oshiro R・金田工業様
26	31	依田 幸久	1'37.421	Team Danke Racing

----- 以上予選通過 -----

# 驚愕の速さで中木亮輔が今季2度目のポールポジションを獲得!

25分間の1本勝負で行われたGP-MONOクラスの公式予選では、第3戦筑波の決勝で転倒しながらも怒濤の追い上げで優勝を飾った中木亮輔が、他車を寄せ付けないタイムで常にリーダーボードのトップをキープしていた。

地元出身の中木にとって、SUGOは誰よりも知り尽くしたコース。前日のA.R.T.合同走行でもきれいな走りを見せていたが、タイム計測されなかったため、他のライダーにとって中木は不気味な存在だったはずだ。

予選では中木に続き、山下祐、乃村康友、小室旭、藤崎直之までがコースレコードを破るタイムを出していたが、ラストアタックとなる13周目に中木はそれまでのコースレコードを約2秒も削る1分38秒554という驚愕のタイムを叩き出し、周囲をうならせた。当の本人はヒョウヒョウとしたもので「想定していたタイムより相当遅かった」と語っている。

しかし決勝では反撃ののろしが上がることは間違いない。現在ランキングトップの小室や、ディフェンディングチャンピオンの山下が中木を逃すまいと食らいついてくるはずだ。森隆嘉も予選では8番手に沈んでいるが、2番手以下のタイムは僅差。決勝ではトップ争いに絡んでくると中木はにらんでいる。

予選タイムでは中木が他車を1秒半も引き離しているが、今シーズンのGP-MONOクラスはすんなりと勝利を手に入れた者はまだ誰もいない。

中木がレースをリードするか? 独走を阻止する者が現れるか? 決勝の行方は誰にも予想できない。

[藤根 ゆかり]



**POLE POSITION 中木 亮輔 1'38.554**

「ポールポジションは獲得できましたが、コンディションが暑すぎたのとクラップがとれなかったこともあり、タイムとしては自分の想定より相当遅かったです。しかし、決勝レースは混戦になると思いますので、当初は様子を見ながら前に立ったら自分のペースで逃げてみようと思います。自分の目標だった37秒台にも挑戦してみたいですね。実家がここから15分と、SUGOは庭のようなものだから、確実に勝ちを狙いたいと思います」

## GP-MONO

## 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	42	中木 亮輔	1'38.554	MIRACLE POWER R
2	1	山下 祐	1'40.066	ZBユビクツR-PLUS ONE
3	83	乃村 康友	1'40.079	モリワキクラブ
4	56	小室 旭	1'40.287	TeamProjectμFRS
5	7	藤崎 直之	1'40.342	チームスガヤ・PILOTA
6	14	小原 覚	1'40.487	プライムモーターサイクル
7	73	山本 晃大	1'40.666	CLUB HARC-PRO
8	2	森 隆嘉	1'40.735	TEAM PLUS ONE
9	9	阿部 徹郎	1'40.751	あべスピ・ヤマハ&セルコホーム
10	41	谷川 壮洋	1'41.121	チームブラズワン
11	5	岡川 真一	1'41.171	チームライディングスポーツ
12	3	岡田 義治	1'41.365	MRFプロマチックアイ&LJ
13	29	斎藤 幸大	1'41.442	パワーハイブリッドレーシング+MRF
14	32	伊東 忠孝	1'41.687	青空・racing ライドスポーツ
15	46	星野 知也	1'41.749	エスハルストリームレーンジャー
16	10	平石 理	1'41.771	レーシングチーム ハニービー
17	68	中村 公彦	1'42.358	IS-P.CC/プリミティブR
18	43	山田 俊樹	1'42.612	BBRT
19	30	三好 崇徳	1'42.644	パワーハイブリッドレーシング
20	4	赤間 清	1'42.678	CLUB HARC-PRO
21	52	小畑 仁	1'42.761	MOTO WIN RACING
22	34	山口 慶高	1'42.824	TEAM MIKUNI-GP mono
23	20	江崎屋 学	1'43.097	IS-P.CC/プリミティブR
24	55	比企 徹	1'43.111	Y/Do MiU Jr.
25	15	永田 正己	1'43.510	TW's&RAVE-ON+ZB
26	88	榎田 智広	1'43.758	Team Life
27	39	加藤 邦男	1'43.784	安倶楽や
28	37	伊藤 淳	1'44.295	MRF&RH松島
29	36	川口 篤史	1'44.315	ROCKET-FRL-K国
30	40	宮川 明和	1'44.456	ファイヤーガレージ&宮川建設株
31	155	吉島 正治	1'44.622	YG55&RH松島
32	27	重野 治	1'44.673	JBS&ミックニ☆サブラフTR
33	66	稲垣 徹	1'44.766	バーニングJr・アケノスピード
34	19	法月 多嘉夫	1'45.480	M・A・R・S elf
35	23	小山 隆浩	1'45.495	18 GARAGE RACING TEAM
36	31	風間 正義	1'46.203	スラクストン&クロスコンフォート
37	38	浅野 史久	1'46.527	チーム リトルウィング
38	35	濱田 貴史	1'46.689	ユビクツツTR-PlusOne
39	84	高橋 一市	1'47.479	森のくまさんモトテックR-4
40	33	日比 真英	1'49.177	スガヤ&ピロータ&走る不動産屋

----- 以上予選通過 -----